

韓国美術 1

縮小像、楕円文土器、幾何学的模様、抽象画傾向、盤龜臺岩刻畫、高句麗芸術、迫力感、柔らかさ、平温感、静けさ、感情の内的調和、百濟芸術、人間的温もり、自然主義、百濟の微笑

(古)新羅の芸術、抽象性、自然主義、無技巧性、韓国化傾向

1. 先史時代

新石器時代と青銅器時代には石、骨、土で作った人物と動物(特に豚)の縮小像が作られていた。人物像は、家族、氏族、または共同体を守ってくれるシャマンの神をモデルとして作られている。芸術品として見れば制作技術が不足な点から彫刻品とは言いがたい。新石器時代のV形楕円の歯模様土器は模様と装飾がはっきりとしていて、単純ながらも抽象的な性質を持っているという点が特徴である。

土器の表面は、幾何学的模様で装飾されている。装飾は水平方向で3つの部分に分けられている。

口縁部(mouth-rim)、起伏部(the main body)、下部口縁部の一番上の部分は骨と木の棒の先で彫ったり押しえて作り、短く平行線を水平にぎっしりと何周にも巻いてあるのが特徴である。その下の起伏部には斜めの平行線を垂直または水平に方向を変えながら並べて、魚の骨の模様ができるようにした。尖ってところが丸かろうが下部は変化のない同じ平行線の紐で装飾した。線を使用した装飾がもたらす全体的な効果は、幾何学的模様がかもし出す整ったクールさである。

紀元前3000年、中期新石器時代頃に、中国の彩色土器の影響で直線でできている初期の模様が、同心弧紋、結繩紋、波状紋と同じ曲線に変わった。装飾範囲も少なくなった。しかし、伝統として受け継がれてきた抽象化傾向は、依然として残っていた。

前で述べたように抽象的表現様式は、北方民族芸術の特徴だ。抽象的傾向または、抽象的な表現様式は韓国の南東部にある有名な盤龜壺岩刻画にも証明されているように青銅器芸術の特徴ともいえる。そして、はっきりとシベリア(Siberia)地域の伝統により、盤龜壺岩刻画は海と陸地の哺乳動物をシルエット(silhouette)様式で彫ったり、輪郭だけを彫ったりした。時には口から肛門に至る生命線が所謂X線の様式で刻まれることもあった。

やはり青銅器時代の遺物として韓国南東部にある2つの岩刻画には菱形、円、稲妻模様などと同じ幾何学的模様だけがある。その中のひとつは、斜面から伸びてきた髪のような線を持つ正四角形が彫られている。岩の芸術での図式化と幾何学的傾向は、その時代の儀礼に使用された青銅の線と点だけを利用して彫った純粋な幾何学的模様にも反映されている。

そして、青銅鏡が青銅器時代の韓国芸術の抽象化傾向を一番はっきりと示している例である。鏡の裏は細くて繊細な線でできていて小さい三角形の網目で装飾されている。このような三角形は実際に青銅器及び初期鉄器時代にシベリアステップ(steppe)地方全地域で大衆的な主材として広く使われていた。

韓国の先史時代芸術は韓国気質を背景とし調和された北方系統の様式を表している。この抽象化傾向は、後に歴史時代に入り、自然主義的技法に変わったが、朝鮮が滅亡する時までずっと韓国の芸術のベースとして受け継がれた。芸術において、抽象化傾向が自然主義へと変わった理由は、第1に韓国人が北方遊牧民族から農耕民族へと変わったという点、第2に仏教が入って来ると共に中国芸術の影響を直接受けたという点によるものである。

2. 三国時代

絵画、彫刻、建築によって広がり、韓国での本格的な芸術活動の始まりは、三国時代が始まる西紀300年くらいだ。仏教が372年に伝わってきて、まもなくしてから芸術活動も大きな影響を受けた。その時が韓国芸術に新しい自然主義の様式ができた時期である。三国の芸術は様式と技術に深い関わりがあり、はっきりと地域的性質を表している。

高句麗

高句麗芸術は高句麗の国境が遼東半島まで至った後も華北地方芸術の影響を直接受けた。それゆえに他の国家や時代よりも高句麗は、北朝とくに北魏(386—534年)芸術から強い影響を受けたことを表している。だが高句麗芸術には中国芸術に見られる軽快な韻律と装飾的な傾向がない。実は、この点が韓国芸術と中国芸術間の根本的に違う点といえよう。高句麗芸術には、北方系統の芸術の極めて典型的な動力が際立っている。高句麗芸術の特徴は、シャープで円滑でない処理方法と屋根瓦に浮彫りで彫った花びら模様、そして平壤古墳から発見された王の枕に付着した金銅の装飾物に彫られていた動物、雲模様の動的で力強い線にはっきりと表れている。この北方系統の迫力感は、高句麗が滅亡した以後も長い間、地域的特長として残っていた。

この北部地域芸術の伝統は南部韓国芸術と接触するたびごとに南部韓国芸術に新鮮な生命力と刺激を与えた。

中国芸術の直接的な影響にも関わらず、高句麗芸術には、接近方法と制作方法において中国と違う点が、いつもはっきりと表れている。この韓国化の傾向は古墳壁画や仏教彫刻品から証明されているように、後期に行け行くほど、もっとはっきりしていく。高句麗の仏像が同時代、華北地方の彫刻から強く影響を受けているが、それよりもっと丸く柔らかい顔、より装飾的な衣のしわ、これらの高句麗の特徴は簡単に指摘できるであろう。平壤の近くにある原五里寺址の泥仏と山明

隅の金銅弥勒半跏像は、高句麗彫刻の傾向をはっきりと表している例だ。線と造形からの滑らかさ、平穏さ、静かさなど、感情の内的調和傾向は、明確に韓国芸術の特徴の一つと言えよう。

百濟

百濟芸術は静かさ、調和、人間的な温かさにおいて、三国時代の芸術の中で際だっている。百濟は半島のなかで一番肥沃な地域を所有していた。穏やかな気候、食糧の安定供給、そして平和な風景のなかで芸術は人間的で、優雅な趣向を凝らしていった。百濟も黄海を通じて中国の南部と接触した。文化と芸術は自然に洗練され、国際的な性質を漂わせるようになった。中国でも揚子江流域の南朝芸術は、北朝芸術に比べて接近方法はもっと自然主義的であり、その精神はもっと詩的で人間的であった。すでに述べたように、百濟は中国の南朝と関係を結んでいたため、百濟芸術の仏教彫刻は、中国の南朝芸術の柔らかな接近方法をより反映している。

6世紀後半に北斎(西紀550—577)では、人体解剖にフォーカスを当て、若く、穏やかな感覚的な彫刻様式が発達した。この新しい様式はすぐ百濟の彫刻にも反映され、百濟の芸術だけに見られる固有な精神的特徴が表れている。

固有の百濟様式でできている百濟彫刻の傑作品は国立博物館所蔵の有名な金銅弥勒半跏像だ。わかるようでわからない古典的で、笑みをつくる静かで丸い顔、頬に軽く触れている優雅で女性的な指、美しく造形された腕、少し屈んだ体に浮かび漂う滑らかで断絶がない線は、以前には見ることができなかった特徴である。

新羅

古新羅芸術の抽象性は、徐々に百濟芸術と接触しつつ自然主義に変わるが、古い伝統は決して完全に消えさることなく、新羅王朝が終わるまで残っていた。

古新羅(Old Silla)芸術は基本的に抽象画傾向が特徴である。このように先史時代の伝統が長く持続したのは、山脈によって外部と隔離された新羅の地理的位置のためである。

新羅土器は、古新羅芸術の単純で純朴で土俗的な特徴をそのまま表現したものである。新羅土器で特別に目をひく点は、非機能的(functionless)、非現実的、儀礼的(ceremonial)性質が機能的、現実的、自然的形態と特別に調和した、線になった幾何学的模様の製作方法、形態、シルエット(silhouette)における全般的な率直さ、単純さと土の色及びきめ、そして表面処理方法である。土器表面のデザインは、幾何学的模様または極めて単純化された人物と動物の姿であった。

新羅土器のこの抽象画傾向は疑う余地のない、韓国先史時代芸術の伝統を継承するもので

ある。

詳細な面において形式的な差があるにもかかわらず、新羅土器は朝鮮時代の磁器と韓国的性格を共有する。すなわち、徹底的な無技巧性、極めて自由で任意的な接近方法、そして特に詳細な面に対する無い。器は普通傾いており、表面は灰汁で汚されていることもある。ところがそういう器関心を示す。新羅土器で蓋がまともに合う例は一つもなは決して失敗作ではない。このような器は、甚だしくは王陵で発見されたりもする。

韓国人は、人間の手によって作られた芸術品を自然の創造物であると考え、生み出されたそのままを認める。このような意味で韓国の工人は自然を創造したのである。

これまで伝来してきた韓国芸術の伝統は、自然性に対するこのように根深い偏愛を示す。人工的な完璧さに対しては大きな関心をもたない。

三国時代の共通特性

前述の論議を通じて、三国時代芸術の共通的で基本的な特性が何であるのか明らかになったはずである。すなわち、人工的な完璧さに対する無関心と自然への献身及び依存である。中国芸術や日本芸術に見られる完璧さは決して見えない。韓国自然主義では人工的なものよりは自然的なものが、冷たい精密さよりは人間的な暖かさが、詳細な面よりは全体的な印象が重要である。これは三国時代芸術が常に精密、繊細、複雑、技巧という観点において、中国芸術に遅れをとると言うことを意味するものではない。実際に優れた中国芸術品にひけをとらない三国時代の多くの傑作がある。

三国時代芸術の基本精神は接近方法と成果において固有した無技巧性に帰結する（concluded,ある結末や結果に至る）自然美に対する信頼である。この精神が最も顕著に現われたのが新羅土器である。この共通の哲学によって職人と大衆は韓国に固有の特別な一体感を抱くようになった。

職人は大衆が真に好む芸術品を作り、その芸術品が日常生活で与えられた機能を満足に果たす一顧客は、工人が作った芸術品を何でも受け入れた。

統一新羅時代(西紀 668-935年)は三国の芸術が一つになり、古新羅の芸術または南部韓国の芸術様式が高句麗の領土にまで知れわたった時代という点において重要である。新羅芸術が極めて国際的な趣向を持った唐芸術から多くの影響を受けたのは事実ではあるが、新羅はすべての韓国的特徴と精神を包括する実に韓国化された芸術を発達させた。新羅の石塔と石燈、そして石窟庵の彫刻によって、この点が確かに証明される。新羅の中心部である韓国南東部において、特別に持続した精神的生命力と完全無欠という内在した伝統がここにも垣間見える。

中国北齊(西紀 550-577 年)で新しい彫刻様式が流入し、韓国彫刻もこの影響を受けて、はるかに柔らかく自然な接近方法を呈したという点は前述した。この新しい様式が新羅では 7 世紀から現われる。

ところが、7 世紀中盤初期、唐彫刻の新しい影響を受け、新羅彫刻は慶州にある土で作った守護神像(国家、民族、個人などを守り保護する神の彫像)や感恩寺遺跡地石塔内部で発見された青銅四天王像に見えるように、冷たいリアリズムにある程度関心を示し始めた。武烈王陵(661 年)にある石で作った亀趺(亀模様の碑石下敷石)と軍威にある石で作った三尊仏と同様に、硬い感じを与える記念物も初期唐様式の影響を受けたものである。ところがこの硬さはまもなく中期唐時代彫刻の傾向を反映したはるかに緩くて自然な傾向に変わった。

唐芸術の強い影響にもかかわらず、韓国芸術の輝かしい業績である石窟庵彫刻が現れたのは、唐から伝来した新しい考えと技術を韓国的に修正してのみ受け入れつつ、韓国人芸術家として残ることに固執した新羅彫刻家の純粋さと完全無欠によるものである。

したがって人体解剖や肉体美にはまったく同じ関心を持っていたが、新羅仏像には唐やインドの彫刻品に見える官能美(voluptuous beauty)が認められない。新羅彫刻家が示す素朴美は、古代韓国人の人生哲学、美意識の表現だである。古代ギリシア(Greece)人のように新羅人も均衡の取れた身体比例を重要だと考えた。したがって新羅人はリアリティー、規則性、自然性を自分の美意識の基盤とした。新羅石塔が調和してに見える理由は、線、表面、大きさ、各部分の間の比例がすきまもなく調和しているからである。この構造が大きくて威圧的な中国の塔(黒灰色または灰色煙瓦で積んだ塔)構造より更に新羅的な目と心の琴線に触れる組合せを持った構造である。摩耗性(摩擦部分が擦れて消える性質)を持った材料である花崗岩は柔らかく自然な感じを与え、これによって新羅の石で作った芸術品を持った美しさに自然性が付け加えられる。

これまでに学習した内容をもとにして討論してみましょう。

- 1 韓国先史時代芸術の支配的な特徴は何でしょうか？
- 2 韓国先史時代芸術の代表的な遺物はどんなものがありますか？
- 3 高句麗美術の特徴について話してみましょう。
- 4 百濟美術の特徴について話してみましょう。
- 5 新羅美術の特徴について話してみましょう。
- 6 三国時代の美術品の中から一つを選び鑑賞を述べてみましょう。

この時間では韓国の美術 1 について学習をしました。

次の時間では韓国美術2について学習をします。
お疲れさまでした。